シンガポール

# NCB 海外レポート

## 西南学院大学との産学連携の取り組みについて

### ～海外インターンシップ in シンガポール～

◇ はじめに

- 当行シンガポール駐在員事務所では、西南学院大学との産学連携協定に基づき「海外インターンシップ」の受け入れを行っています。
- 本稿では、8 月 31 日から 3 日間にわたり実施したインターンシップの様子についてご紹介いたします。

◇ 海外ビジネスの最前線へ

- 本プログラムは、地域で活躍する国際人材の育成を目的として、2019 年にスタートしました。5 回目となる今回は、西南学院大学商学部の学生 3 名を受け入れました。
- 3 日間のプログラムでは、シンガポールで活躍する企業や、当行のお取引先・業務提携先など、10 社以上を訪問し、海外ビジネスの最前線に触れました。現地法人を率いる経営者からは、グローバル市場での挑戦や苦労について、お話を伺いました。また、現地で活躍される若手社員の方々からは、キャリアや仕事に対する思いについて、お話しいただきました。日々奔走される駐在員の皆様の多様な価値観や働き方等について直接お伺いできたことは、学生にとって貴重な学びの機会となりました。
- 訪問先の一つである Panasonic R&D Center Singapore は、パナソニックホールディングスがシンガポールに設置する研究開発拠点です。2025 年 8 月には、プンゴル・デジタル・ディストリクト（PDD）[1]にイノベーションハブを開設し、AI を活用したスマートビル技術やロボティクスの開発・協業・実証に取り組んでいます。今回の訪問では、Panasonic R&D Center Singapore の松尾 General Manager から、企画から商品化・事業化までのプロセスに加え、研究開発や技術実証、企業・大学との協業、さらには、新たな技術・ソリューションの発信拠点としてのシンガポールの優位性等についてご説明いただきました。



Panasonic R&D Center Singapore 松尾 General Manager（右）の説明に熱心に耳を傾ける西南学院大学のインターン生（左）

- また、パナソニックグループの九州拠点で生まれた次世代通信技術「Nessum[2]」について、PDD で行われている実証実験を見学しました。学生たちは、研究開発の成果が社会実装へつながる過程を肌で感じ、その可能性の大きさに感銘を受けた様子でした。

◇ おわりに

- 今回参加した 3 名からは、「自らの頭で考え、実際に確かめる姿勢を大切にしたい」「多角的な視点を持って学生生活を送りたい」「業界、働く場所、働き方など選択肢を広げ、自分のキャリアについて考えたい」といった感想をいただきました。本プログラムが、学生たちにとって日本では得難い多くの気づきや学びを得る機会となれば嬉しく思います。
- 当行は、今後も大学との連携を通じて、地域の未来を担う人材の育成に積極的に取り組むことで、地域の活性化を図り、地域社会の発展に貢献してまいります。

2026 年 10 月 13 日作成

西日本シティ銀行 シンガポール駐在員事務所

[1] シンガポールの政府系開発企業 JTC が主導する同国初のスマートかつ持続可能な大規模ビジネスパーク・エリア。

[2] 通信の死角解消や配線コスト削減に貢献する次世代通信技術。IEEE 1901 シリーズとして国際標準化されている。